

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700101	人間環境学共同演習	1～2	2×2	奥田・田畑・吉田 他
期間	曜日	時限	備考：2 ヶ年連続履修	
通年	水	1		

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境との相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域の位置づけを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

3名の担当者以外にも、本研究科に属する研究指導教員は積極的にこの演習に参加し、議論に加わっていくことにする。

【2 ヶ年連続して履修し計4 単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けての検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

この演習では、授業テーマに掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、人間環境学の構築をめざす。

評価方法

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730101	科学技術と経済社会環境演習	1～2	2×2	奥田栄
期間	曜日	時限	備考：	
通年	火	3		

授業のキーワード：

問題発見、深化、実証的な視野、発表

授業のテーマ：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりについて理解する。しかし、科学技術と経済社会環境が重層的で多様な仕方でかかわっていることを理解するのは簡単なことではない。十分な理解には、歴史的な実態を実証的に追及することが必要となる。

授業の概要：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりのなかから、各々が独自のテーマを選び、それに関連するテキストを批判的にまとめて発表し、議論する。

授業の計画：

1. 関心領域の特定
2. テキストの選択
3. ～14. 選んだテキストの講読とそれに基づくまとめと発表、議論
15. まとめ

授業方法：

テキストの講読とそれに基づく議論を中心に、質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりのなかから、各々が特定のテーマを選び、それを深く掘り下げていけるようになること。

評価方法：

発表内容（60%）、授業への貢献度（40%）

教科書：

特に指定しない。各人がそれぞれの関心に基づいてテキストを選択する。

参考書：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730201	地域経済演習	1～2	2×2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	5	

授業科目のキーワード：

定常化社会、成長・拡大・開発・豊かさ、GNH（国民総福祉）、地域再生

授業のテーマ：

日本再生のビジョンとして、「成熟経済」後の社会構想と人間・地域・価値を考える。

授業の概要：

テキストを輪読し、基礎理論を復習しながら最新の理論状況についても説明する。

授業の計画：

前期

1. オリエンテーション
2. 3. 4. 創造的定常経済システムの構想
5. 6. 7. 資本主義、社会主義、エコロジー
8. 9. 10. グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカル
11. 12. 13. コミュニティとしての都市
14. 15. 地域の「豊かさ」とは何だろうか

後期

1. 前期のレビュー
2. 3. 4. 自治体の課題からみた「社会保障と税の一体改革」
5. 6. 7. 進化と福祉社会
8. 9. 10. 第一の定常化と第二の定常化
11. 12. 13. 近代における私利の追求、成長・拡大
14. 15. ポスト資本主義／定常型社会における価値

授業方法：

テキストの輪読（受講者がレジュメ、報告、コメント、司会をする）を軸にして進めるが、テキスト以外にも参考文献を指示するので、多面的なコメントや書評を求める。

達成目標：

- ①専門書を精読、意見交流するなかで研究者としての主体性、自立性を養う。
- ②抽象的な理論を現実的に課題や現象にひきつけて理解できるよう心がける。
- ③論文の作成の技法、プレゼンテーション能力の訓練をする。

評価方法：

前期と後期に1回づつ、関連するテーマを選んで口頭報告を行う。

教科書：

「創造的福祉社会」（広井良典、ちくま新書、2011年）860円

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730401	財務会計演習	1～2	2×2	磯貝明
期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 リース会計 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計ビッグバンと呼ばれる会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革を、後期にはとりわけリース会計基準についてとりあげる。また、修士論文指導もあわせて行う。

授業の計画：

前期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 連結財務諸表制度
4. 税効果会計
5. 退職給付会計
6. 時価主義
7. 減損会計
8. キャッシュフロー計算書
9. 企業結合会計
10. 会社法会計
11. 金融商品取引法会計
12. 資産除去債務に関する会計
13. 会計制度の国際的動向
14. 会計制度の新たな展開
15. 総括・修士論文中間報告

後期

1. リース取引に関する会計上の論点
2. リース取引の本質と会計処理
3. 日本のリース会計基準の分析（レシー）
4. 日本のリース会計基準の分析（レサー）
5. 日本のリース会計基準改正に対する反応
6. 修士論文中間発表
7. リース取引の認識を巡る諸問題
8. リース取引の測定を巡る諸問題
9. セール・アンド・リースバックの会計
10. リース会計基準の展望
11. リース会計に関する論点総括
12. 修士論文指導
13. 修士論文指導
14. 修士論文指導
15. 修士論文研究報告

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

評価方法：

各回の発表：100%

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ 会計制度 新訂版』 同文館出版 ￥2,100

藤井良広編著 『環境債務の実務』 中央経済社 ￥3,800

佐藤信彦・角ヶ谷典幸編著 『リース会計基準の論理』 税務経理協会 ￥3,200

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740101	科学技術と経済社会環境特論	1・2	4	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

環境理解、呪術的世界観、合理的世界観

授業のテーマ：

環境の変化は人間の生活をさまざまに規定してきた。その中で人間は環境を理解し、できるだけ生き易くしようと努力し、ついには環境を思い通りにできるようになっていった。その結果、地球環境が危機に瀕することになったわけであるが、そうした人間の活動を振り返り、今後の文明のあり方を考える。

授業の概要：

前期は、産業社会以前の文明による環境理解について講義する。この中には、日本の伝統的な環境理解も含まれる。後期は、合理的世界観の登場とその日本への導入についてみた上で、その世界観の弊害について考える

授業の計画：

前期

1. ガイダンス
2. 狩猟採集生活
3. アイヌの世界観
4. 農業の発生
5. 農業革命
6. 環境破壊による文明の衰亡
7. ギルガメッシュ叙事詩
8. 呪術的世界観とはどのようなものか
9. 日本の神々
10. 神と仏
11. 平安時代と怨霊
12. 中世の終焉と環境
13. 資本主義の登場と環境
14. 『はげ山の研究』にみる共有地の悲劇という幻想
15. まとめ

後期

1. ガイダンス
2. 資本主義の起源
3. 合理的世界観
4. アリストテレスとデカルト
5. ベーコンのビジョン
6. 天動説と地動説
7. 宇宙の大きさと年齢
8. 進化論
9. 創造説と進化論
10. 日本への合理主義の導入
11. 合理主義と迷信
12. 戦争と合理主義
13. 科学絶対主義から相対主義へ
14. 科学と疑似科学
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現在日本の公教育で教えられる公式の世界観である合理的世界観を正しく理解すると同時に、その世界観のもたらした弊害についても理解できるようになる。

評価方法：

授業への貢献度（30％）に前期試験（30％）、後期試験（40％）の結果を加味して判定する

教科書：

とくに指定せず、その都度参考文献を指示する

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740201	地域経済特論	1・2	4	藪谷あや子
期間	曜日	時限	備考：	
通年	火	1		

授業のキーワード：

持続可能な地域社会、グローバル／ナショナル／リージョナル／ローカル、

授業のテーマ：

モノづくり論（日本の製造業論）の観点から日本経済と企業経営の中心課題を理解する。グローバル化のもとで、愛知県の企業と集積地の展望について学習する。

授業の概要：

グローバル経済の意味するところを具体的に理解する。日本企業におけるその実相、促進要因、技術的基礎、帰結等について関心をもち、代表的な理論を理解する。

授業の計画：

<前期>

1. オリエンテーション
2. 名古屋大都市圏のデータ分析
3. 同 構造分析
4. 愛知県の人口データ分析
5. 同 構造分析
6. 愛知県の産業データ分析
7. 同 構造分析
8. 中間まとめ
9. 産業集積地の理論
10. 産業集積地の実態分析
12. 自動車産業論1
13. 西三河自動車産業集積地論1
14. 日本の製造業論
15. まとめ

<後期>

1. オリエンテーション
2. 工業統計調査結果の分析～愛知県
3. 同 ～地域別
4. 産業空洞化の理論
5. 産業空洞化の実態分析
6. 自動車産業論2
7. 西三河自動車産業集積地論2
8. 中間まとめ
9. 日本の企業間関係論
10. トヨタ生産方式
11. アメリカ産業論
12. EU産業論
13. 産業政策論1 シリコンバレー・モデル
14. 産業政策論2 第3のイタリア・モデル
15. まとめ

授業方法：

テキストを軸に講義するが、テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連したDVDを活用する。大学院生と公開講座としての受講者には、別途、議論の場を設けることもある。

達成目標：

経営学の実践編として、経営学で学んだ初歩的知識で、講義内容を説明する。
統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。

評価方法：

期末試験100%で評価する

- ・企業経営の初歩的知識を修得し、現代における重要課題を理解している……………A
- ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

教科書：

岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷あや子による連載（コピーを配布します）

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード：

科学の統合 人間と環境とのつながり 経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境

授業のテーマ：

経済学を他の学問領域と統合することを目指した環境経済学者K.W.カップや「公害」(kogai)という言葉の世界で最初に用いた経済学者都留重人の環境経済思想について取り上げる。

授業の概要：

前期では、教科書的な環境経済学とカップのそれとを比較しながら、環境問題の原因のとりえ方とその解決法について考えていく。後期では、日本の環境経済学に多大な影響を与えた経済学者都留重人の業績を振り返り、その現代と将来における意義と残された課題について論じる。

授業の計画：

(前期)

- (1) A.C.ピグーの経済学
- (2) K.W.カップの経歴と初期の思想
- (3) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』①
- (4) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』②
- (5) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』③
- (6) 『私的企業の社会的費用』①
- (7) 『私的企業の社会的費用』②
- (8) 『私的企業の社会的費用』③
- (9) カップの教育思想
- (10) アダム＝スミス『国富論』①
- (11) アダム＝スミス『国富論』②
- (12) アダム＝スミス『道徳感情論』
- (13) J.S.ミル『自由論』
- (14) J.S.ミル『経済学原理』
- (15) まとめ

(後期)

- (1) イントロダクション
- (2) 都留重人の経歴と基本思想
- (3) 『所得と福祉』①
- (4) 『所得と福祉』②
- (5) 『公害の政治経済学』①
- (6) 『公害の政治経済学』②
- (7) 『公害の政治経済学』③
- (8) 『公害の政治経済学』④
- (9) マルクスの思想
- (10) 『資本論』①
- (11) 『資本論』②
- (12) ケインズ思想
- (13) ケインズ『一般理論』①
- (14) ケインズ『一般理論』②
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。経済学史の重要性を理解する。

評価方法：

期末試験100%

- 環境経済学の有効性と限界をよく理解している…………… A
 環境経済学について知っているがあまり説明力がない… B
 ところどころ間違って理解している…………… C
 上記のレベルに達していない…………… D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

- K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。
 都留重人『都留重人著作集 全13巻』講談社。
 尾高煌之助・西沢保編『回想の都留重人—資本主義、社会主義、そして環境』勁草書房。
 その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740501	資源循環型経済社会論特論	1・2	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

資源、エネルギー、物質・エネルギー代謝、廃棄物、経済的厚生分析

授業のテーマ：

20世紀の高度に発達した物質文明は地球規模での環境破壊をもたらしたことから、21世紀は持続可能な新たな文明のあり方が模索されている。前期は文明とは人間と自然との間の物質・エネルギー代謝の仕方(様態)であるという視点から、持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済原則を明らかにし、持続可能な循環型社会の経済システムのあり方を展望する。

授業の概要：

前期は、各種の原料資源、エネルギー資源の特性等を概説したうえで、人間と自然との物質・エネルギー代謝と人口、経済システム、科学技術、エントロピーとの係わりを論じ、この代謝の歴史の変遷から持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は、廃棄物の市場価格や資源循環の阻害要因等を分析し、循環型社会の政策体系や環境税・デポジット制度などの具体的政策の経済分析を行う。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 環境・資源・文明
3. 原料資源(鉱物資源)
4. 原料資源(生物資源・水資源)
5. エネルギー資源(化石燃料)
6. エネルギー資源(核エネルギー)
7. エネルギー資源(再生可能エネルギー)
8. 資源と人口(環境の人口圧力)
9. 資源と経済システム
10. 資源と科学技術
11. 資源とエントロピー
12. 資源開発と環境問題
13. 日本の物質・エネルギー代謝
14. 文明と物質・エネルギー代謝
15. 持続可能な文明と物質エネルギー代謝

<後期>

1. ガイダンス、廃棄物の経済学的解釈
2. 市場経済と市場メカニズム(補論1)
3. 廃棄物の市場価格
4. ワンウェイ型経済の市場価格の様相
5. 市場メカニズムと外部費用
6. 外部費用の発生要因(1)
7. 外部費用の発生要因(2)
8. 限界理論(補論2)
9. 企業の行動原理と供給曲線(補論3)
10. 余剰と経済的厚生(補論4)
11. 循環型経済構築の政策的着眼点
12. 循環型経済構築のための政策体系
13. 環境税の経済分析
14. デポジット制度の経済分析
15. 拡大生産者責任の経済分析、まとめ

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてスライド・プリント等の資料を用います。

達成目標：

前期はエントロピー概念を基礎に、文明を物質・エネルギー代謝の視点からとらえる方法論を修得する。後期は市場メカニズム、廃棄物の市場価格、外部費用の発生メカニズム、限界概念、経済的厚生分析の手法を理解し、環境問題の経済学的アプローチの基本を理解する。

評価方法：

授業の取組み：30%、テスト：70%で評価する。

教科書：

指定なし

参考文献：

- 佐々木信行『資源論入門』コロナ社 (ISBN4-339-06598-6)
 西山孝『地球エネルギー論』オーム社 (ISBN4-274-13227-7)
 植田和弘『環境経済学』岩波書店 (ISBN4-00-004576-8)
 吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』東海大学出版会 (ISBN4-486-01373-5)

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	1	

授業のキーワード：

環境リスク、リモートセンシング、GIS、リスクコミュニケーション

授業のテーマ：

人間活動と自然環境の間で双方向に及ぼされる環境リスク問題について、その概念と分析・評価手法の基礎的事項を実習を通じ理解する。実習では衛星画像などのリモートセンシングデータや地理情報システム（GIS）を用いた地域分析の手法を修得する。さらには行政・企業・民間にわたるリスクコミュニケーションの促進に向けた、情報整備・伝達手法について理解する。

授業の概要：

衛星画像解析とGISの活用にあて、実習を進めていく。植生情報をおもに扱うが、必要があれば各々の研究テーマ等へのこれら手法の利活用についても考え、授業に取り入れていく。

授業の計画：

- | | |
|---|---|
| <p>(前半)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境リスクの概念 2. 衛星画像解析の基本 3. 衛星画像による植生解析 4. 衛星画像による地形解析、裸地・崩壊地抽出 5. 衛星画像による災害情報の抽出 | <p>(後半)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. GISの操作の基本（ArcGIS） 7. GISによる景観情報の分析 8. GISのリスク管理への適用 9. GISの情報公開・アカウントビリティへの適用 |
|---|---|

授業方法：

ソフトウェアの操作を主とする実習形式をとり、適宜課題を与える。また事例分析のための文献購読を交える。

達成目標：

環境リスク問題についての定量的アプローチの基本概念を理解し、専門的課題に対処できる衛星画像解析技術やGIS活用技術の基本を身につける。

評価方法：

レポート（70%）と授業への取り組み（30%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

- 吉田聡ら『図解!ArcGIS10〈Part1〉身近な事例で学ぼう』、古今書院、2,730円
川崎昭如ら『図解ArcGIS〈Part2〉GIS実践に向けてのステップアップ』、古今書院、2,730円
長澤良太・原慶太郎・金子正美、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』、古今書院、4,725円
モニカ G.ターナー・ロバート V.オニール・ロバート H. ガードナー、『景観生態学—生態学からの新しい景観理論とその応用』、文一総合出版、3,990円
加藤正人、『改訂 森林リモートセンシング』、日本林業調査会、2,500円

実験・実習・教材費：

30,000円（衛星画像データ購入費、消耗品費として使用）。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750501	環境分析化学演習及び実験	1～2	2×2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3・4	

授業のキーワード：

野外調査 文献調査 データ処理 報告

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

評価方法：

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる… A

測定の方法、データが報告できる…………… B

測定の方法とデータが報告ができる。…………… C

Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

33,000円（試薬、器具などの消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760401	環境倫理特論	1・2	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	3	

授業のキーワード：

Nietzsche, Nihilismus, Natur, Leib, Erde, Uebermensch

授業のテーマ：

Friedrich Nietzscheが近代哲学のNihilismusを主張し、Uebermenschの必要を説いたその内実として、ErdeとしてNaturの意味を転換していたことを原典に読み解く。

授業の概要：

Friedrich NietzscheのAlso sprach Zarathustra (Kritische Gesamtausgabe VII) をテキストとし、講読をおこなう。

授業の計画：

前半

1. テキストについて
- 2～14. Vorrede 講読
15. まとめ

後半

1. 前半復習と確認
- 2～14. VorredeおよびVon den Veraechtern des Leibsなど講読
15. まとめ

授業方法：

講読。テキストの独文を訳し、解釈、分析、を行う。

達成目標：

近代思想批判の出発点にある本書の講読を通じ、Friedrich Nietzscheの主張するErde, Natur, そしてLeibの哲学史的な意義を理解する。

評価方法：

- A 独文原書を理解し、Friedrich NietzscheのいうErdeおよびNaturについて理解している
- B 独文原書を理解し、Friedrich NietzscheのいうLeibの意味の転換について理解している
- C 独文原書を理解し、Also sprach Zarathustraの歴史的意義を理解している
- D 独文原書を理解できない。

教科書：

Also sprach Zarathustra (KSA、KGWなど)

参考文献：

適宜指示する

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760701	財務会計特論	1・2	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	5	

授業のキーワード：

財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：

近年、国際会計基準審議会（IASB）のもと、国際的な会計基準の統合が世界規模で推し進められている。日本でも、IASBによって設定された国際財務報告基準（IFRS）に対応するため、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められ、現在もコンバージェンスが続けられている。IFRSへの対応は、日本企業のグローバル競争力に直接的に結びついており、今後の動向が注目されるため、本科目ではこれを取りあげ考察していく。

授業の概要：

国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷とIFRSへの各国の対応を取りあげ、わが国の会計基準コンバージェンスの必要性と課題について論及する。また、具体的にIFRSの導入がわが国の会計実務に与える影響について考察する。なお、本科目は企業会計の基礎知識、とりわけ会計制度についての基本的知識および簿記処理手続についての知識が必要であり、この科目の受講に際しては、日商簿記検定2級（商業簿記）以上の知識を有していることを条件とする。

授業の計画：

前期	後期
1. オリエンテーション	1. 国庫補助金等収入・工事契約の会計
2. 国際会計基準の概要、意義と特徴	2. 従業員給付会計
3. 国際財務報告基準（IFRS）	3. 借入費用の会計
4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向	4. リース会計
5. 日本における会計基準コンバージェンス	5. 減損会計
6. 有形固定資産会計	6. 税効果会計
7. 投資不動産会計	7. 外貨換算会計
8. 売却目的固定資産会計	8. 企業結合会計
9. 無形資産会計	9. 連結会計
10. 棚卸資産会計	10. ジョイント・ベンチャー会計
11. 金融商品会計	11. セグメント情報の開示基準
12. 引当金会計	12. 年次財務諸表の作成
13. 偶発債権・債務会計	13. 中間・四半期財務諸表の作成
14. ストック・オプション等会計	14. 会計方針・会計上の見積りの変更・誤謬
15. 損益会計論（収益会計）	15. 財務諸表に関する補足情報

授業方法：

テキストにしたがって、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：

国際財務報告基準（IFRS）を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRSがわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになることを目標とする。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。なお、受講態度（講義への積極的取り組み・遅刻など）についても評価対象とする。

教科書：

菊谷正人編著『IFRS・IAS徹底解説』 税務経理協会 2009年、¥3,150
 国際会計基準委員会財団『国際財務報告基準（IFRS）2011』 中央経済社 2011年、¥15,750

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760901	環境分析化学特論	1・2	4	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	1	

授業のキーワード：

機器分析 分光分析 クロマトグラフ分析 電位差分析

授業のテーマ：

環境試料中の化学成分を測定するために分析機器が用いられることが多い。分析機器を利用する場合、使用方法は比較的短期間で習得することができる。しかし、その原理を理解しようとすると、化学だけでなく物理学の知識も必要になるため、それほど容易ではない。本講義では機器分析のうち、光と物質の相互作用を利用する分析法である分光分析法と、物質の電気的性質を利用した分析法であるイオンクロマトグラフ法と電位差分析法を取り上げて、その原理を紹介する。

授業の概要：

分光分析の基礎となる光と物質の相互作用について解説したあとで、代表的ないくつかの分光分析法を紹介する。

イオンクロマトグラフ法については原理と実際の測定例を示す。

電位差分析についてはその原理である酸化還元電位について説明した後、この分析法の代表的なものであるpHメーターについて説明する。

授業の計画：

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 元素と原子 | 16. 原子吸光分析(1) 測定原理 |
| 2. 原子の構造 | 17. 原子吸光分析(2) 機器の概要 |
| 3. 原子オービタル | 18. 原子吸光分析(3) 測定例 |
| 4. 原子オービタルと電子配置 | 19. 発光分光分析 測定原理と機器の概要 |
| 5. 電子配置と元素の周期性 | 20. 蛍光分析(1) 測定原理 |
| 6. 最外殻電子と原子の電子式 | 21. 蛍光分析(2) 機器の概要 |
| 7. 光子の波長とエネルギー | 22. 蛍光分析(3) 測定例 |
| 8. 光子と物質の相互作用 | 23. 赤外吸収法(1) 分子の運動 |
| 9. 吸光光度法 | 24. 赤外吸収法(2) 分子の運動と光の相互作用 |
| 10. 検量線を利用した濃度の算出 | 25. 赤外吸収法(3) TOC計の測定原理 |
| 11. ランベルト・ベールの法則(1) | 26. イオンクロマトグラフ分析 |
| 12. ランベルト・ベールの法則(2) | 27. 酸化還元電位 |
| 13. 分光光度計(1) | 28. 電位差分析 |
| 14. 分光光度計(2) | 29. pHメーター |
| 15. まとめ(1) | 30. まとめ(2) |

授業方法

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。講義の最後にも当日の理解度を確認するための小テストを行う。

達成目標

・代表的な分析機器の概要と測定対象、測定の原理がわかる。

評価の方法

期末試験（100％）による。

代表的な分析機器の概要と測定対象がわかる。測定の原理がわかる。… A

代表的な分析機器の測定対象と概要がわかる。…………… B

代表的な分析機器の測定対象がわかる。…………… C

Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770101	臨床心理査定演習	1	4	高橋・坪井・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	5	

授業のキーワード：

心理査定 投映法 知能検査 心理検査

授業のテーマ：

臨床心理士として必要不可欠な臨床心理査定の実際を学びます。特に、病院や精神科クリニック等の病院心理臨床現場において通用する心理査定の技法とその実施方法を習得します。

授業の概要：

臨床場面で実際に臨床心理査定が実施できるよう、教育・訓練を行います。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～3 投映法について（ロールシャッハ法テスト体験を含む）
- 4～14 ロールシャッハ法を中心とした投映法の実際（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

<後期>

- 1～5 知能検査（実施方法・分析・解釈等）
- 6～10 発達検査（実施方法・分析・解釈等）
- 11～14 その他の心理検査（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

授業方法：

講義および演習・実習（テスト体験・テスター体験含む）形式で行います。臨床心理査定を本当に自分のものとして習得できるか否かは、各自の主体性にかかっていますので、積極的な学習意欲に期待します。

達成目標：

臨床心理士の基本的姿勢と倫理について学ぶとともに、総合的、臨場的な見立てと対処方法など、臨床現場で役立つ具体的な臨床心理査定の習得を目指します。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

ロールシャッハ法テキストは大学院でまとめて購入します。詳細は授業の中で説明します。

参考書：

池田豊應編「臨床投映法入門」ナカニシヤ出版（税込2,800円）
その他、必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	渡辺・田畑・高橋・ 坪井・三後
期間	曜日	時限	備考 ：2ヵ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

臨床心理学、研究方法、修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、臨床的な、臨床心理学的研究、考察の訓練を行ない、最終的には修士論文としてまとめることを目的とする。

授業の概要：

院生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。

授業の計画：

1年次前期末には院生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。院生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他院生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、院生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

院生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合させながら、担当教員の指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理学徒としての研究論文の作成。

評価方法：

研究発表とその内容（50%）、授業への取り組み（50%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	高橋・坪井

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。また、遊戯療法や箱庭療法の観察・実習を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前半は臨床心理士としての基本について学び、後半はロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。

授業の計画：

<前期>

- ①オリエンテーション
 - ②心理臨床に関する倫理について
 - ③心理臨床に関する関連法規について
 - ④心理面接を行う基本的態度・初回面接・事例研究について
 - ⑤ロールプレイの基礎（ビデオ視聴・紙上応答訓練）
 - ⑥～⑨ロールプレイ（実習）
- *カンファレンス（M2と合同）4～7月第Ⅱ金曜日 計4回
- *定例授業時間外に実施（授業2回分に相当）
- ・見学実習（精神科病院・クリニック・私設心理相談室・児童相談所・適応センター等）
 - ・遊戯療法観察（人間環境大学附属心理相談室）

<後期>

- ①遊戯療法観察事例の検討
 - ②「来談者中心療法」ビデオ視聴と検討
 - ③～⑥箱庭（事例の提示・実習）
 - ⑦～⑨事例検討（院生担当事例について）
- *カンファレンス（M2と合同）9～3月第Ⅱ金曜日 計5回（1、2月除く）
- *定例授業時間外に実施（授業1回分に相当）
- ・見学実習（情緒障害児短期治療施設・青少年相談センター等）

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が基本となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

30,000円（実習教育・教材費および消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770401	臨床心理実習	2	2	渡辺・田畑・三後
期間	曜日	時限	備考：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

院生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨場的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・情緒障害児短期治療施設・小中学校など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨場的な指導、教育を行なう。

授業方法：

院生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回院生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨場的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000円（病院実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	渡辺雄三

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ：

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定の理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要：

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法（心理療法）、の構成によって授業を進める。

授業の計画：

担当教員の執筆による教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床的、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期	後期
1回～2回 第1章「臨床心理学の原則」	1回～3回 第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～5回 第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	4回～5回 第9章「クライアントにかかわる」
6回～7回 第3章「臨床心理学の見方、考え方」	6回～7回 第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
8回～9回 第4章「クライアントに会う」	8回～10回 第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～11回 第5章「クライアントを理解する」	11回～13回 第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
12回～13回 第6章「クライアントを査定する」	14回～15回 第13章「クライアントと共に歩き続ける」
14回～15回 第7章「病態水準論」	

授業方法：

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

授業への取り組み（70%）とレポートによる評価（30%）。

教科書：

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』（金剛出版）（5,800円）

参考文献：

渡辺雄三『病院における心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢分析による心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢が語るこころの深み』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780201	臨床心理面接特論	1	4	田畑洋子

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

心理療法、人格変容、事例研究

授業のテーマ：

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要：

心理療法に関する各種理論の基本的概念について学び、担当教員の事例や専門誌掲載の公表事例を検討することにより、理論が実践にどのように生かされるかについて理解を深める。

授業の計画：

- 前期 ①オリエンテーション、臨床心理面接を行う基本的態度・倫理について
 ②来談者中心療法～基本的概念と事例の検討
 ③精神分析的な心理療法～基本的概念と事例の検討
 ④ユング派心理療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤遊戯療法～基本的概念と事例の検討
 ⑥行動療法～基本的概念と事例の検討 * 各項2～3時間を充当
- 後期 ①認知行動療法～基本的概念と事例の検討
 ②家族療法～基本的概念と事例の検討
 ③日本の心理療法について
 ④箱庭療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤親面接～基本的考え方と事例の検討
 ⑥学校での心理面接～基本的考え方と事例の検討 * 各項2～3時間を充当

授業方法：

各項について報告者がレジュメを作成、発表し、全員で討議する。
 来談者中心療法・遊戯療法・箱庭療法・親面接については担当者が講義を行う。

達成目標：

各種心理療法についての特徴を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

教科書：

使用しない。その都度文献を紹介する。

参考文献：

授業中に随時紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780301	臨床心理査定特論	1・2	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード：

心理査定、見立て、人格理解、病態水準

授業のテーマ：

臨床心理査定についての基礎から臨床実践的な使用方法に至るまでの習得を目標とします。査定は心理療法と切り離すことのできない技法であり、その理解と実践力は臨床的な力ともなります。基礎的な施行法や分析法と共に、病態水準の診断、人格や知性の判断、感情や対人関係の在り方などの解釈をめぐって検討を行っていきます。

授業の概要：

査定や見立ての基礎的な理論を習得することから始めて、質問紙法や投映法の理論的な背景を考え、臨床実践的な技法を理解することに繋げていくことになります。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 査定と見立て
- 4～6. 心理検査の理論と概要
7. 人格検査について
8. 人格検査施行(1)
9. 人格検査分析と解釈
10. 事例検討(1)
11. 人格検査施行(2)、分析と解釈
12. テストバッテリーについて
- 13～14. 事例検討(2)
15. まとめ

授業方法：

まずいくつかの基礎的な論文を購読する。そして徐々に実践的な心理アセスメントを体験しながら、各技法の特徴や解釈法を身につけるための学習を行います。それと併行して臨床実践の中でどのように使用されるのかを概説し、議論していきます。

達成目標：

臨床心理査定を学び、概論から臨床実践までの理解をすることが目標となります。

評価方法：

平常点（出席状況および受講態度）50%とレポート（50%）によって総合的に評価します。積極的に発言することが求められ、特に遅刻・欠席は厳しい評価になります。

教科書：

特にありません。

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	小泉規実男

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード：

「現代精神分析の趨勢」「精神分析療法の鍵概念」「転移・逆転移」
「セラピストの自由連想（もの想う）能力」「精神分析的思索」

授業のテーマ：

「精神分析的療法におけるクライアントとセラピストの自由連想法的相互探求」

授業の概要：

現代精神分析の趨勢・鍵概念と、講師の臨床実践を毎回提示する。受講生はそれらに対する理解や自由連想法的過程を自己観察し、言語化したレポートを毎回提出していただく。もって、逆転移を治療的活用する自己観察力や精神分析的思索のあり方について、体験的に学ぶことを目的とする。

授業の計画：

精神分析療法とりわけ現代対象関係論は、転移＝逆転移という無意識的交流を介して再燃される内的対象関係を意識化することを目指す理論と技法論の総称である。その際、技法論や構造論を理論的に習得の一方で、逆転移を治療的に活用する自己観察力や自由連想的に「もの想う」力などの精神分析駆な思索が訓練として求められる。

ここでは、最初の6回で「現代精神分析の趨勢」と精神分析の鍵概念（「プロセスノートの書き方」「転移・逆転移」「最早期記憶」「夢」「初回面接」）を最初に押さえる。その上で、講師自身による事例報告を中心とした精神分析の実践を9回提示する。受講生は、それらの鍵概念や臨床実践報告を聴いて理解したことや連想したことを自己観察し、できるだけ知性化せずに自由連想法的に語っていただくことで、集団での討論を深めていく。更に授業後に、その過程や思索した内容をレポートとして記述し、24時間以内に講師のメールアドレス宛に送信していただく。その返信メールに、次回までに予習して頂く「講義ノート」「事例報告」などを毎回送信する。

授業方法：

授業は円卓にて行う。二回目以降は、事前送信した資料の補足的説明を行い、それに対する受講生の理解や連想を自由連想法的に語って貰うことで、精神分析的思索を深めていく。

達成目標：

逆転移を治療的活用する自己観察力や精神分析的思索のあり方について、体験的に学ぶ。

評価方法：

8割以上の出席率を最低条件とし、「授業への取り組み」20%・「毎回授業後に提出して貰うレポートの内容」80%によって評価する。期末のレポート提出や試験は行わない。

教科書：

教科書は特になし。但し、2回目以降、「講義ノート」「実践報告」を返信メールにて送信する。

参考文献：

土居健朗著『方法としての面接』1977、医学書院
小此木敬吾著『対象喪失』1979、中公新書
ベルトラン・クラメール著『ママと赤ちゃんの心理療法』1994、朝日新聞社
松木邦裕著『対象関係論を学ぶ』1996、岩崎学術出版社

実験・実習・教材費：

特になし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：
後期	集中	E	

授業のキーワード：

グループ・アプローチ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ、グループ・プロセス、グループ・アウトカム（効果）

授業のテーマ：

小グループやグループ状況を活用する心理臨床のグループ・アプローチは、心理治療、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチの種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）などのエンカウンター・グループと集団心理療法についてその特徴や意義、方法、グループ・プロセス、グループ効果、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

授業の計画：

1. グループ・アプローチの定義と種類を概説する。
2. グループ・アプローチの歴史と現状を概説する。
3. グループ・アプローチの立場と理論(1)を解説する。
4. グループ・アプローチの立場と理論(2)を解説する。
5. グループ・アプローチの実際(1)について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチの実際(2)について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチの実践事例(1)の理解を深める。
8. グループ・アプローチの実践事例(2)の理解を深める。
9. グループ・アプローチの体験学習(1)を行う。
10. グループ・アプローチの体験学習(2)を行う。
11. グループ・アプローチの研究(1)について紹介・解説する。
12. グループ・アプローチの研究(2)について紹介・解説する。
13. グループ・アプローチの教育・訓練について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチの課題と・倫理について解説する。
15. グループ・アプローチの発展と可能性について考える。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料の解説、ビデオとDVDの視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを行ってグループ・アプローチの理解を深める。

達成目標：

グループ・アプローチに関して基本的な理論と実際についての理解を深める。

評価方法：

平常点…50%、レポート…50%

教科書：

伊藤義美編著、『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』、ナカニシヤ出版、2,940円

参考文献：

伊藤義美編著、『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』、ナカニシヤ出版、2,310円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780801	心理学研究法特論	1	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード：

相関係数、ノンパラメトリック検定、質問紙調査、因子分析、行動観察

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。

授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。

授業の計画：

第1回	2変数の相関①	第9回	順位についての検定
第2回	2変数の相関②	第10回	質問紙調査の実施と分析①
第3回	2変数の相関③	第11回	質問紙調査の実施と分析②
第4回	相関係数の有意性検定①	第12回	質問紙調査の実施と分析③
第5回	相関係数の有意性検定②	第13回	因子分析①
第6回	度数についての検定①	第14回	因子分析②
第7回	度数についての検定②	第15回	行動観察法の基礎
第8回	度数についての検定③		

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携行すること。また授業以外にも課題を課すこともある。

達成目標：

修士論文作成に必要な心理統計の基礎知識とデータ解析方法の修得を目標とする。EXCELやSPSSを使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

参考文献：

鵜沼・長谷川 共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円

大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

準備物：

関数電卓（カシオ製で統計計算ができるもの）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード：

学習、適応、条件づけ、認知的学習、社会的学習

授業のテーマ：

成育後のヒトが示すほとんどの行動は生後の経験を通じて学習されたものである。したがって、学習過程の研究は人間行動の理解にとって不可欠であるといえる。この授業ではヒトや霊長類動物の発達や環境適応において重要な役割を果たしている学習行動に関する代表的な理論や研究結果を紹介し、学習という心的過程のメカニズムについて考えていく。

授業の概要：

馴化、鋭敏化、条件づけといった基本的な学習現象から、概念形成、模倣といった複雑な情報処理システムに基づいた学習現象までを解説する。さらにこうした学習現象と関連する心理過程（記憶や動機づけ）のはたらきや、比較心理学や発達心理学的観点からみた学習の意義についても考えていく。

授業の計画：

第1回	学習の定義・学習の様式	第9回	強化スケジュール
第2回	行動の分類	第10回	条件づけの応用
第3回	馴化と鋭敏化	第11回	洞察学習と概念形成
第4回	古典的条件づけの形成	第12回	社会的学習
第5回	古典的条件づけの消去と般化	第13回	技能の習得
第6回	古典的条件づけの隠蔽と阻止	第14回	動物の学習行動
第7回	オペラント条件づけの形成	第15回	学習と記憶の生理学的基礎
第8回	オペラント条件づけにおける強化		

授業方法：

プリントと映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。

達成目標：

学習における普遍の特徴と種特異性、学習と適応の関連性について、広い視野から俯瞰できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

実森・中島共著 『コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理』 サイエンス社 1,575円
岡田・廣中・宮森共著 『コンパクト新心理学ライブラリ14 生理心理学』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード：

比較行動学、比較心理学、動機づけ、系統発生、適応

授業のテーマ：

ヒトと動物の動機づけ過程を取り上げ、その適応的意義について種間比較の観点から検討するとともに、行動発現のメカニズムを解説していく。さらに、またヒトの生活場面（特に学習と教育）における動機づけの問題についても、研究例をあげながら考えていく。

授業の概要：

比較行動学と比較心理学の基礎知識を確認し、ヒトとそれ以外の動物種（特に哺乳類動物）の比較という観点から動機づけの過程を俯瞰し、ヒトという種の独自性を理解していく。

授業の計画：

- 第1回 行動研究における種間比較
- 第2回 動機づけの分類
- 第3回 ホメオスタシス
- 第4回 生理的欲求における生得性
- 第5回 内発的動機（好奇動機）
- 第6回 内発的動機（操作動機）
- 第7回 社会的動機（生殖と哺育）
- 第8回 社会的動機（攻撃）
- 第9回 学習性の動機（条件性恐怖）
- 第10回 学習性の動機（学習性無力感）
- 第11回 動機づけと自律神経系のはたらき
- 第12回 動機づけと報酬系のはたらき
- 第13回 動機づけと情動
- 第14回 生活場面における動機づけの問題①
- 第15回 生活場面における動機づけの問題②

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。

達成目標：

比較行動学の基礎知識を習得することに加え、心理学的な観点（個体発生）のみでなく、行動学的観点（系統発生）からヒトや動物の動機づけ過程を理解できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論	1・2	2	高木浩人

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	C	

授業のキーワード：

仕事への動機づけ、人事、職場の人間関係、リーダーシップ、ストレスとサポート、キャリア、消費者行動

授業のテーマ：

産業・組織心理学の重要テーマである、動機づけ、人事、リーダーシップ、キャリアなどについて理解を深める

授業の概要：

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、自らの生活に引き寄せて理解することで、この学問領域のもつ意味について考える。

授業の計画：

1. 産業・組織心理学の概要
2. 仕事への動機づけ
3. 人事評価制度
4. 人事測定の方法
5. 職場の人間関係と意思決定
6. 職場集団におけるリーダーシップ
7. 職場のストレスとサポート
8. 組織における協力と葛藤
9. キャリア発達を促進する支援
10. 売り手と買い手の心理学

授業方法：

各章について発表者がレジюмеを作成、配布して発表する。他の受講者は発表内容について議論する。必要に応じて担当者が解説する。それに加えて、測定尺度への回答、回答結果についての考察、シミュレーションゲーム等を実施し、理解を深める。

授業目標：

産業・組織心理学の領域で、これまでにどのようなことが研究されてきており、現代社会においてどのような意味をもっているのかについて理解すること。

評価方法：

授業時の発表、参加態度、レポートによる。

教科書：

田中堅一郎編 『産業・組織心理学エッセンシャルズ【改訂三版】』 ナカニシヤ出版 ¥2,940

事前に教科書を購入し、受講者の間で担当箇所を決め、レジюме（1章あたりB4あるいはA3で3～4枚程度）を作成、授業時に配布、発表してください。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論	1・2	2	吉田俊和

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード：

攻撃性 欲求不満 不快情動 葛藤の解決 意思決定モデル 社会的情報処理モデル

授業のテーマ：

攻撃性は、対人関係の葛藤解決や集団間の紛争の解決を困難にしている。DV、虐待、いじめなどは、極めて今日的な課題といえる。そうした事象の根底にある心理学的なプロセスについて、最新の知見を総合的に学ぶことを目的とする。

授業の概要：

攻撃は本能か、それとも単なる情動反応かについて、これまでの心理学的な見方を概観する。次に攻撃の機能に注目すると、いくつかの心理学的理論が仮定されている。最後に、攻撃の生起から制御、実行に至る心理学的なモデルについて学んでいく。

授業の計画：

1. 人間の攻撃性－地球上で最も凶悪な存在－
2. 死の本能説－おのれに背くもの－
3. 生得的攻撃機構説－悪の自然誌－
4. 殺人適応形質理論－暴力の進化心理学－
5. 欲求不満説－ストレスと攻撃－
6. 不快情動と攻撃－衝動的攻撃性－
7. 意思決定理論－戦略的攻撃性－
8. 社会的情報処理モデル－攻撃的認知の形成－
9. 攻撃適応理論－資源コントロール－
10. 二過程モデル－衝動システムと熟慮システム－
11. 一般的攻撃性モデル－状況と個人要因の相互作用－

授業方法：

授業は、各章ともレポーターがレポートを作成し、発表する。各章ともコメンテーターの役割を担う人は、議論の口火を切って、質問してください。他の受講者は、その議論に参加し、自分の考えを述べてください。受講者は、レポーターとコメンテーターを各1回は義務づけられます。受講者が少ない場合は、複数の章を担当していただきます。逆に受講者の多い場合は、ページ数の多い章を複数の人で担当してください。

達成目標

攻撃性について、心理学的な知見は多様であり、背景にある理論も人間観によって異なっている。現在は、有力ないくつかのモデルを呈示していることを理解する。

評価方法：

レポーターおよびコメンテーターとしての役割と、議論への参加度と最終レポートで行います。

教科書：

新版 人を傷つける心：攻撃性の社会心理学 大淵憲一著（セレクション社会心理学 9）
サイエンス社 ￥2,400

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781401	心身医学特論	1・2	2	総田純次
期間	曜日	時限	備考：	
前期	集中	B		

授業のキーワード：

ケースマネジメント、非構造的面接

授業のテーマ：

心身医学は、一般医学と精神科ないし臨床心理学、身体と心に跨る学際的な医学領域であり、一般医による生物学的治療と精神科医や臨床心理士による心理学的アプローチが同時に並行することが多い。そのために、1) ケースマネジメントのための他専門職との連携、2) 構造化の弱い状況での心理療法的関わりが要求されることになる。こうした経験は翻って、スクールカウンセリング、学生相談、企業のメンタルヘルスなど、現在臨床心理士のニーズが高まりつつある多彩な領域での心理療法的関わりを学習するうえでよいモデルとなろう。

授業の概要：

心身医学の概念・歴史について講義の形で概説した後、事例を通じて心身医学領域での心理療法的関わりを学習する。素材として、1) バリントによる一般開業医向けの心理療法セミナー、2) 下坂幸三による過食症の初回家族面接のDVDなどを予定しており、積極的に視聴覚資料を用いる。

授業の計画：

- 第1日目午前：授業の狙いを解説した後、授業担当者による消化性潰瘍の研究の展望論文を材料にして、1) 心身症の諸概念を学習する（心身症の概念、ストレス、タイプA、ライフイベントなどの基礎的概念）。
- 第1日目午後：2) 心身医学領域での研究の変遷を辿ることで、心理学的研究法の概観を得る（修士課程の研究の参考にもなる）。そのあとケースのマネジメントとサイコセラピーについて概説する。
- 第2日目：M.バリント『プライマリ・ケアにおける心身医学』の事例を用いて、構造化の弱い状況での心理療法的関わり（ケースマネジメント、連携、心理療法）を議論する。
- 第3日目午前：下坂幸三による過食症初回家族面接のDVDを用いて、1) 日常的な心理療法のあり方、2) 身体症状の取り扱い方、3) 家族力動の見方などを議論する。
- 第3日目午後：他の視聴覚資料を用いてケースマネジメントについて議論する（候補：リネハンによる境界性パーソナリティ障害の弁証法的行動療法のビデオ）。全体のまとめ。

授業方法：

講義は心身医学の概説に関する部分のみで、あとは事例や視聴覚資料を通じて参加者で討議する。討議のプロトコールを作成する。また効率化のために事前に配布する資料を読むこと。

達成目標：

①心身医学の最低限の諸概念（心身症、ストレス、タイプAなどの概念）を学習すること、②心身医学の研究の歴史的展望を通じて、心理学的研究法を概観すること、③心身医学領域での心理療法的関わりを通じて、事例のマネジメントを学習すること。

評価方法：

出席や討論、発表の日常点=70点、レポート=30点

教科書：

とくになし。資料は配布する（場合によっては事前配布）。

参考文献：

M.バリント、池見西次郎『プライマリ・ケアにおける心身医学』（診断と治療社）（入手困難）
下坂幸三『アノレキシア・ネルボーザ論考』金剛出版、同『摂食障害治療のコツ』金剛出版

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード：

知的障害 発達障害 特別支援教育

授業のテーマ：

近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 障害児者に関わる法律
4. 特別支援教育とは
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 広汎性発達障害
8. 学習障害
9. AD/HD
- 10～14. 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分について調べたことをもとに、レジюмеを作成し、順番に発表し検討していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。

達成目標：

それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解することを目的とします。

評価方法：

課題への取り組みおよび発表内容（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	谷伊織
期間	曜日	時限	備考：	
前期	集中	8/8~8/10(11)		

授業のキーワード：

データ解析、論文読解、質問紙法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行する上で、一連の統計的な手続きを理解することはきわめて重要である。

この授業では、心理学で必要とされる一連の統計技法を理解することを目的とする。

授業の概要：

授業の前半では、実際に雑誌に掲載されている論文を読みながら、そのなかで使用されている統計手法を解説する。授業の後半はコンピュータを用いてSPSSおよびAmosによる統計処理の作業を体験する。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 分析手法を組み合わせて結果を導く1 |
| 2. 統計処理で陥りがちな問題点1 | 10. 分析手法を組み合わせて結果を導く2 |
| 3. 統計処理で陥りがちな問題点2 | 11. 分析手法を組み合わせて結果を導く3 |
| 4. 統計処理で陥りがちな問題点3 | 12. 分析手法を組み合わせて結果を導く4 |
| 5. 統計処理で陥りがちな問題点4 | 13. 分析手法を組み合わせて結果を導く5 |
| 6. 個別の分析手法1 | 14. 最終課題1 |
| 7. 個別の分析手法2 | 15. 最終課題2 |
| 8. 個別の分析手法3 | |

授業方法：

講義、実習、レポート作成、プレゼンテーションを組み合わせて授業を行う。

なお、受講者の理解度に合わせて授業内容を変更することがある。

達成目標：

実際の研究で陥りがちな問題点に触れながら、分析に対するクリティカルな思考ができる技術を身につける。

評価方法：

授業への参加態度50%、レポート50%で評価する。

教科書：

小塩真司『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

参考文献：

各自の理解度に応じて参照すること。SPSSの操作方法と基本的な分析方法は1. を、より研究に近い応用的な分析方法を学ぶためには2. を参照すること。

1. 小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで－』（東京図書）
2. 小塩真司『実戦形式で学ぶ SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	森田美弥子

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	A	

授業のキーワード：

ロールシャッハ法、投映法による人間理解、臨床心理査定

授業のテーマ：

ロールシャッハ法を用いて、投映法による人間理解について学ぶ。

投映法は、臨床心理査定の「技法」とすると同時に、半構造化面接のような特徴ももっている。検査実施場面で必ずの行動は分析・解釈に役立つものである。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、査定の作業を進めていく必要がある。

授業の概要：

ロールシャッハ法の分析・解釈について、従来の解釈仮説など理論的背景を概観し、事例の検討を行う。名古屋大学式ロールシャッハ法を中心に扱うが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とする。

授業の計画：

第1日目：量的分析

- ・各スコアの解釈仮説。スコアリングの留意点。
- ・数量指標の意味。カテゴリーごとの特徴把握。
- ・名大式ロールシャッハ法について。
- ・「感情カテゴリー」と「思考・言語カテゴリー」

第2日目：質的分析

- ・継列分析のポイント。
- ・カード特性。
- ・事例検討①
- ・実施方法および記録の仕方。

第3日目：実践的活用

- ・総合的解釈。水準の見立て。パーソナリティの記述。
- ・事例検討②
- ・フィードバックの仕方。
- ・まとめ。

授業方法：

主として前半は配布資料にもとづく講義を中心に進めるが、受講生自身が考え全体で討議する時間をとる。後半に事例検討を行う。受講生が実施したロールシャッハ法を発表し、全員で検討する。(あらかじめ発表者を決めて準備をしておいてください)

達成目標：

単なる知識や技術の習得ではなく、ロールシャッハ法などの臨床心理査定技法の背景にある意味を理解することを目指す。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）…60%、レポート…40%

教科書：

使用しない。

参考文献：

名古屋ロールシャッハ研究会：編『ロールシャッハ法解説－名古屋大学式技法－』2,400円
森田ほか『実践ロールシャッハ法－思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版 2,520円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790101	比較日本文化論演習	1～2	2×2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修
通年	火	2	

授業のキーワード

日本思想、比較思想的方法、思想の読解

授業のテーマ

主に日本の思想を（必要に応じて外国語で書かれた思想も）原書で読むことを通して、日本文化を生み出して来た日本人のものの考え方や思想の特質を、比較思想的手法も駆使しつつ、熟考する。履修者自身が、自分の関心を研究にまで仕上げる手助けをする。

授業の概要

上質な日本思想論をテキストとし、熟読含味する作業を行なう。単に知識として知るだけでなく、担当教員の詳しい説明を手掛かりにして、履修者が自分自身で考える力を養う。履修者による研究発表と、それについての討議と指導。

授業の計画：

前期

- ①日本思想論のテキストの解説。卒業論文に関する指導
- ②日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(1)
- ③日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(2)
- ④日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(3)
- ⑤日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(4)
- ⑥日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(5)
- ⑦日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(6)
- ⑧履修者による研究発表
- ⑨履修者による研究発表
- ⑩日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(7)
- ⑪日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(8)
- ⑫日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(9)
- ⑬日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(10)
- ⑭履修者による研究発表
- ⑮履修者による研究発表

後期

- ①日本思想論のテキストの読解、解説、討議(11)
 - ②日本思想論のテキストの読解、解説、討議(12)
 - ③日本思想論のテキストの読解、解説、討議(13)
 - ④日本思想論のテキストの読解、解説、討議(14)
 - ⑤日本思想論のテキストの読解、解説、討議(15)
 - ⑥日本思想論のテキストの読解、解説、討議(16)
 - ⑦日本思想論のテキストの読解、解説、討議(17)
 - ⑧履修者による研究発表
 - ⑨履修者による研究発表
 - ⑩日本思想論のテキストの読解、解説、討議(18)
 - ⑪日本思想論のテキストの読解、解説、討議(19)
 - ⑫日本思想論のテキストの読解、解説、討議(20)
 - ⑬履修者による研究発表
 - ⑭履修者による研究発表
 - ⑮日本思想論のテキストの読解、解説、討議(21)
- とまとめ

授業方法：

予告された箇所のテキストについて、前以て不明の箇所を調べ熟読した上で、授業に出席することを、履修者に義務づける。担当教員からの履修者に対する問いと、履修者からの応答の後、担当教員が詳しい解説を行なう。また、履修者に対する研究指導も、随時行なう。

達成目標：

熟読含味理解という作業をおろそかにしないために、進度は遅々としているが、深く考えられた思想が表現された文章をできるかぎり理解するように努める。日本の文化や思想、歴史等に対する履修者の関心を、研究といえる水準にまで高める能力を養う。

評価方法：

下準備した上での出席、発表。討議への積極的な参加。これらを総合的に評価する。

これらの諸点のいずれかにおいて、

優れていると認められた場合…………… A

やや欠けるところはあるが、ある程度の努力はしたと認められた場合… B

やや欠けるところもあり、努力する姿勢がもっと必要な場合…………… C

Cに達しない場合…………… D

教科書：

予めこちらで把握できる履修者に関しては、年度初めまでに事前に通知する。新たな参加者に対しては、初回に知らせる。

参考文献：

授業時に適宜紹介する。

実習・実験・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790301	日本近世教育文化論演習	1～2	2×2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード：

古文書、日本漢文、くずし字

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読むようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

授業の計画：

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 吉田松陰 | 16 『日本外史』① |
| 2 西郷隆盛 | 17 『日本外史』② |
| 3 坂本龍馬 | 18 『日本外史』③ |
| 4 橋本左内 | 19 『日本外史』④ |
| 5 石田梅岩 | 20 『日本外史』⑤ |
| 6 上杉鷹山 | 21 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 会沢正志斎 | 22 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 『旧幕府』① | 23 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 『旧幕府』② | 24 古文書 候文の基礎① |
| 10 『旧幕府』③ | 25 古文書 候文の基礎② |
| 11 『旧幕府』④ | 26 古文書 候文の基礎③ |
| 12 『旧幕府』⑤ | 27 古文書 基礎史料解読① |
| 13 『旧幕府』⑥ | 28 古文書 基礎史料解読② |
| 14 『旧幕府』⑦ | 29 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 『旧幕府』⑧ | 30 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

井上久雄著、川口雅昭訳編『大教育者のことば』致知出版社。一、六〇〇円。

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790501	日本語教育演習	1～2	2×2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業科目のキーワード：

研究方法、質的研究法、分析手法、データ

授業のテーマ：

1. 質的研究の方法論について学ぶ。
2. データの特徴と適切な分析について学ぶ。
3. 先行研究論文を読む。

授業の概要：

質的研究方法についての参考図書を分担で読み、発表。質的なデータの分析方法を学び、分析してみる。先行研究論文を研究方法に焦点を当て批判的に読む。

授業の計画：

1. 質的研究法とは
2. データの特徴と分析方法
3. 先行研究を研究方法の視点から分析(1)
4. 先行研究を研究方法の視点から分析(2)
5. 研究方法論(1)PAC分析とは
6. PAC分析利用の先行研究を読む
7. PAC分析、データ収集体験
8. トランスクリプトの作り方
9. PAC分析 データ分析演習(1)
10. PAC分析 データ分析演習(2)
11. 研究方法論(2)SCATについて知る(1)
12. SCATについて知る(2)
13. SCAT利用の先行研究を読む(1)
14. SCAT利用の先行研究を読む(2)
15. 前期 まとめ
16. データ収集体験（記述式回答）
17. SCAT分析体験(1)
18. SCAT分析体験(2)
19. SCAT分析体験(3)
20. インタビューとは（種類、特徴）
21. 半構造化インタビューによるデータ収集
22. 結果の視覚化、文字化
23. 分析演習
24. 分析方法の検討
25. 半構造化インタビューとPACインタビューの比較
26. 相互行為分析とは
27. 先行研究を読む(1)
28. 先行研究を読む(2)
29. ライフストーリーインタビューの視点
30. まとめ

授業方法：

演習形式で行う。毎回1、2名がレジユメを作って発表し、全員で討議する。

達成目標：

質的研究方法について理解を深める。いくつかの分析方法は、利用できるようになる。

評価方法：

授業時の課題・発表	50%
レポート	50%

教科書：

授業時に指示する。

参考文献：

授業時に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800101	比較日本文化論特論	1・2	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

宗教経験と場、経験、物語、国語

授業のテーマ：

日本の文化と思想をめぐる諸問題について、特に経験と言葉という視点から、比較文化論的、比較思想論的考察を行なう。講義は隔年で継続発展している。

授業の概要：

日本の神社には、一定の年限を定めて社殿を造替し御神体を奉遷する式年遷宮という制度があり、今年度は、伊勢神宮と出雲大社の両方において、この式年遷宮が行なわれる。前期では、この式年遷宮を話の発端として、宗教経験と場という問題について考える。後期では、前期の講義の内容を前提として、「経験と言葉」という問題に考察を進める。今年度は、特に物語と日本語の場的性について考察する。

授業の計画：

前期

- ①導入講義
- ②宗教建造物(1)
- ③宗教建造物(2)
- ④式年遷宮(1)
- ⑤式年遷宮(2)
- ⑥宗教経験と祭祀(1)
- ⑦宗教経験と祭祀(2)
- ⑧宗教経験と祭祀(3)
- ⑨場と建立(1)
- ⑩場と建立(2)
- ⑪場と建立(3)
- ⑫宗教経験と場(1)
- ⑬宗教経験と場(2)
- ⑭経験と場
- ⑮前期まとめ

後期

- ①経験と場という問題と、言葉(1)
- ②経験と場という問題と、言葉(2)
- ③言語表現としての神話(1)
- ④言語表現としての神話(2)
- ⑤物語論(1)
- ⑥物語論(2)
- ⑦物語論(3)
- ⑧物語論(4)
- ⑨物語論(5)
- ⑩物語論(6)
- ⑪日本語の場的性(1)
- ⑫日本語の場的性(2)
- ⑬日本語の場的性(3)
- ⑭日本語の場的性(4)
- ⑮今年度の講義のまとめ

授業方法：

必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

講義で考察される問題がどういう問題であるのかを理解し、それが受講者自身にとって、また現代にとってどういう意味をもつ問題であるか理解する。

評価方法：

(a)授業への取り組み、(b)学期末試験、(c)レポートを同等の比重で重視する。

(a)における真摯な態度を前提とした上で、(b)と(c)において、

- 講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合…………… A
 理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…………… B
 かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合… C
 Cに達していない場合…………… D

教科書：

特になし。

参考文献：

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800301	日本近世教育文化論特論	1・2	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

近世、教育（人づくり）、社会

授業のテーマ：

18世紀末からのウエスタン・インパクトと国内支配体制の混乱に対して、我国の武士階級が行った対応は、人材育成という抜本的改革であった。そして、そこで養成された人材は、結果的に「明治日本」発展の中心的役割を果たすこととなった。

そこで、本講義では、近世、とりわけ、幕末という時代を理解させるため、幕末期の天皇と幕府の関係を中心として、その社会を考える。そして、とりわけ、幕末期において、特異な人づくりを行ったと思われる、長州藩及び薩摩藩における学校教育（主に藩校教育）などを考える。

授業の概要：

18世紀終わりから、19世紀初めに在位された光格天皇は、ある意味では、我国の幕末という時代を準備された天皇であった。そこで、まず、天皇と幕府との関係を中心として、幕末という時代を理解させる。そして、その中で諸問題に対し、長州、薩摩藩がどのような人づくりを行ったかを理解させる。

授業の概要と計画：

- 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生②—
- 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇②—
- 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識②—
- 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷②—
- 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立②—
- 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興①—
- 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興②—
- 幕末期の教育現状—長州藩を中心として—
- 幕末期の教育現状—薩摩藩を中心として—
- まとめ
- 幕末期の教育現状—寺子屋の教育①—
- 幕末期の教育現状—寺子屋の教育②—
- 幕末期の教育現状—寺子屋の教育③—
- 幕末期の教育現状—寺子屋の教育④—
- 幕末期の教育現状—寺子屋の教育⑤—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾①—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾②—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾③—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾④—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園①—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園②—
- 幕末期の教育現状—私塾の教育—適塾—
- 「学制」の制定と近代学校制度の整備①
- 「学制」の制定と近代学校制度の整備②
- まとめ

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

幕末という時代を代表する史料を読み取り、また、その時代を理解できる能力を習得する。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

なし。史料は適時配布。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840601	日本語教育特論	1・2	4	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

前期：日本語能力、評価基準、評価方法、OPI
後期：外国語教授法、言語習得

授業のテーマ：

日本語能力評価、教授法

授業の概要：

前期：OPI（話す力を面接によって測定するテスト）について理解し、OPIの方法を身につける。
後期：グループ毎に、担当する教授法を決め、その教授法を使って授業を行う。

授業の計画：

前期

1. 「日本語ができる」とは
2. テストの妥当性と信頼性
3. 外国語能力評価の枠組みについて学ぶ(1)
4. 外国語能力評価の枠組みについて学ぶ(2)
5. OPIの知識、技術を身につける。(1)
6. OPIの知識、技術を身につける。(2)
7. OPIの知識、技術を身につける。(3)
8. OPIテストを作成する。(中上級)
9. OPIテストを作成する。(超級)
10. テスト実施と判定体験(1)超級
11. テストを評価する。修正する。
12. テスト実施と判定体験(2)
13. テストを評価する。修正する。
14. テスト修正(ロールカードを中心に)発表
15. まとめ

後期

1. 外国語教授法の理論と歴史
2. 外国語学習理論、学習理論の変遷
3. デモ授業実施のためのオリエンテーション
4. オーディオ・リンガル・メソッド
5. 直接法
6. TPR
7. サイレントウエイ
8. CLL
9. サジェストペディア
10. ナチュラル・アプローチ
11. VT法
12. CLT(1)話す、聞く
13. CLT(2)読む、書く
14. 対等性、共生を实践する対話の方法
15. 学習者主体の活動（プロジェクトワーク）

授業方法：

各授業のテーマや課題について、グループ単位で討議し結果をクラス全体に報告・発表する。学生が積極的に作業に参加し、活動を通じて理解を深める参加型学習。

達成目標：

前期：教授法の理論を踏まえ、学習者のニーズに応えた外国語の教え方が考えられるようになる。
後期：日本語の「話す能力テスト」について学び、能力測定についての技術を身につける。

評価方法：

課題・発表 50%
レポート 50%

教科書：

『日本語教授法ワークショップ』凡人社

参考文献：

「JF日本語教育スタンダード2010」国際交流基金

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
810201	茶道文化論演習	1～2	2×2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	火	4	

授業のキーワード：

点前 運び 棚 荘物

授業のテーマ：

「亭主と客の距離、茶室空間を学ぶ」
茶道の実技を通して茶道の本質を学ぶ。

授業の概要：

利休により完成した茶道は、現代まで脈々と受け継がれ、日本の伝統文化の根幹をなすものである。そして点前は茶人の長い経験と工夫とによって、洗練され一定の方式が生まれ、それが無駄のない、美しい型となって現代まで脈々と受け継がれてきた。点前作法の規律正しさ、節度ある人と人との対応の仕方、手の運び、または身体全体の動作などすべて、五常（人の守るべき五つの道徳）にかなっている。点前を通して亭主と客の距離（間）も含めて探求する。

授業の計画：

前期（風炉点前）

1. 運び薄茶点前～道具の位置関係
2. 棚薄茶点前～道具の位置関係
3. 運び濃茶点前～道具の位置関係
4. 棚濃茶点前～道具の位置関係
5. 茶筌荘～道具の位置関係
6. 茶杓荘～道具の位置関係
7. 茶入荘～道具の位置関係
8. 茶碗荘～道具の位置関係
9. 貴人点点前～道具の位置関係
10. 貴人清次点点前～道具の位置関係
11. 長緒茶入点前～道具の位置関係
12. 入子点点前～道具の位置関係
13. 続き薄茶～道具の位置関係
14. 初炭手前～道具の位置関係
15. 後炭手前～道具の位置関係

後期（炉点前）

1. 運び薄茶点前～道具の位置関係
2. 棚薄茶点前～道具の位置関係
3. 運び濃茶点前～道具の位置関係
4. 棚濃茶点前～道具の位置関係
5. 茶筌荘～道具の位置関係
6. 茶杓荘～道具の位置関係
7. 茶入荘～道具の位置関係
8. 茶碗荘～道具の位置関係
9. 貴人点点前～道具の位置関係
10. 貴人清次点点前～道具の位置関係
11. 長緒茶入点前～道具の位置関係
12. 入子点点前～道具の位置関係
13. 続き薄茶～道具の位置関係
14. 初炭手前～道具の位置関係
15. 後炭手前～道具の位置関係

授業方法：

基本的には実習主体で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

達成目標：

点前の修練を通して茶道の本質を学ぶ

評価方法：

授業態度を重視（70%）茶道力の検定（20%）レポート課題（10%）

教科書：

なし

参考文献：

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
820201	茶道文化論特論	1・2	4	神谷昇司
期間	曜日	時限	備考：	
通年	月	4		

授業のキーワード：

北山文化 東山文化、南蛮文化 千利休 武家茶の湯

授業のテーマ：

「生活芸術としての茶の湯文化を日本文化史の中で探求する」

授業の概要：

日本独自の伝統文化としての茶道は、平和のシンボルとして現代の日本人の心のよりどころとなるものです。茶の湯文化の成立・変容・発展過程を王朝文化、中世、近世の文化史の中で捉えて考察する。

授業の計画：

茶はもともと中国で飲用され、中国文化として我が国に将来された。唐時代の団茶、宋時代の抹茶、明時代の煎茶と時代により、茶の湯文化は変容するが、特に抹茶は、南北朝から室町時代にかけてわが国の様々な生活芸術の一つとして確立し、千利休によって大成する。また利休以後の茶の湯の変容をその時代背景の中で考察する

- | | |
|------------------|-------------------|
| (1) 花開く王朝文化 | (3) 黄金文化と茶の湯 |
| 1、 貴族の文化 | 1、 2、 南蛮文化と黄金文化 |
| 2、 3、 喫茶の始まり | 3、 4、 茶の湯の黄金時代 |
| 4、 絵画と書 | 5、 6、 新しい焼き物の時代 |
| 5、 6、 土器から陶器へ | 7、 衣服と染織 |
| (2) 茶道・香道・華道と水墨画 | (4) 大名と町衆文化 |
| 7、 8、 室町将軍家と諸文化 | 8、 9、 江戸文化の諸相 |
| 9、 10、 茶の湯の成立 | 10、 11、 武家茶の湯の拡がり |
| 11、 12、 華道・香道・連歌 | 12、 13、 数寄空間の展開 |
| 13、 14、 水墨画の時代 | 14、 琳派と諸工芸 |
| 15、 まとめ | 15、 まとめ |

授業方法：

基本的には講義形式で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

達成目標：

茶の湯文化の背景を学ぶ

評価方法：

出席を重視
筆記試験とレポート課題

教科書：

よくわかる伝統文化の歴史「花ひらく王朝文化」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「茶道・香道・華道と水墨画」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「黄金文化と茶の湯」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「大名と町衆の文化」(淡交社1,680円)

参考文献：

谷端昭夫著「日本史のなかの茶道」(淡交社2,000円+税)

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840301	日本近・現代史特論	1・2	4	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	火/集中	4/E	

授業のキーワード：

立憲政治 明治憲法 日清戦争 日露戦争 太平洋戦争

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。具体的には幕末のペリー来航から立憲政治の確立、日清・日露戦争から太平洋戦争終戦までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知る。

授業の概要：

明治憲法の成立から太平洋戦争にいたる歴史をたどっていく。

授業の計画：

〔前期〕

- 第1回 立憲政治実現過程の日欧比較
- 第2回 幕閣専断から公議輿論の尊重へ
- 第3回 加藤弘之の「鄰艸」
- 第4回 王政復古の政変
- 第5回 五箇条の御誓文
- 第6回 「公議」の制度化への試み
- 第7回 版籍奉還と廃藩置県
- 第8回 岩倉使節団
- 第9回 征韓論と明治六年の政変
- 第10回 大久保利通と明治政府
- 第11回 民撰議院設立建白書
- 第12回 自由民権運動
- 第13回 士族反乱と西南戦争
- 第14回 さまざまな憲法構想
- 第15回 明治十四年の政変
- 第16回 前期末試験

〔後期〕

- 第1回 伊藤博文の憲法調査と宮中改革
- 第2回 内閣制度の創設と憲法の発布
- 第3回 第一回帝国議会の開会
- 第4回 第四議会と和衷協同の詔勅
- 第5回 条約改正と対朝鮮政策
- 第6回 壬午・甲申事変
- 第7回 日清戦争
- 第8回 三国干渉と日露の対立
- 第9回 日露戦争
- 第10回 日露戦後の内政と外交
- 第11回 第一次大戦とワシントン会議
- 第12回 満洲事変の原因とその勃発
- 第13回 協調と対立の中の昭和十年代
- 第14回 太平洋戦争の勃発と戦争目的
- 第15回 戦時外交と終戦
- 第16回 後期末試験

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

授業の内容をしっかりと把握する。

評価方法：

試験（100％）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし